

「初等中等教育における当面の教育課程及び指導の充実・改善方策について」
(平成 15 年中教審答申) (抄)

2 教育課程を適切に実施するために必要な指導時間の確保

(1) 現状と課題

1. (略)

2. 各学校における年間総授業時数の現状と課題

すべての公立小・中学校を対象に実施した教育課程編成・実施状況調査によれば、平成 14 年度の年間総授業時数の実績は、小学校で 9 割以上の学校が、中学校で 5 割以上の学校が国の定める「標準」時数を上回っている一方で、中学校においては、第 1・2 学年は約 2 割の学校が、第 3 学年で 3 割以上の学校が「標準」時数を下回っている状況にある。

また、同調査によれば、学校行事の時間数について、平成 6 年度には中学校で平均 83.1 単位時間であったものが、平成 15 年度には 69 単位時間以下の中学校が 74.1%となるなど、全体として見れば大きく減少していると考えられ、学校行事等の意義を十分踏まえられない過度の削減が行われている場合もあるのではないかとと思われる状況にある。

この調査の結果のみから、各学校において指導に必要な時間が確保されているかどうかということについて一概に判断することはできない。しかしながら、特に、中学校第 3 学年では、約 2 割の学校が「標準」時数を 30 単位時間以上下回っている状況にあることを踏まえれば、各教科等の指導に必要な時間の確保がなされていない事例もあるのではないかと推測される。